

★事務所：神奈川県中郡大磯町国府本郷546大磯プリンスホテル内 TEL：0463-61-1111(木) TEL/FAX：0463-36-2255

★例会：毎週木曜日 12:30~13:30 大磯プリンスホテル TEL：0463-61-1111 FAX：0463-61-6281

会長 鈴木 勝

会長エレクト 守屋 紀忠

幹事 守屋 紀忠

第2254回 例会

平成25年10月17日 (晴) No.14

■司会：原 千明

■点鐘：百瀬 恵美子

■合唱：手に手つないで

◇プログラム ・10月26,27日：地区大会 ・10月31日：ゲストスピーカー伊藤延雄地区R財団委員長

例会	会員数	出席数	出席率	メイクアップ	修正出席率
2254回	19(16)	8	50.00%	—	—
2252回	19(15)	8	53.33%	1	60.00%

◇欠席者(8名)井上、新宅、及川、
小林、宮澤、石山、太田、原卓さん
◇メイクアップ(1名)宮澤さん

◇ひとこと

宣誓：皆さんは呪いというもの信じますか？又どの様に思われますか。その昔伊賀・甲賀、又真田十勇士の中に猿飛佐助や霧隠の才蔵等の忍者が呪術を使ったそうです。又憎々しい思いをさせられて者に一矢を報いたいと藁人形を作り、その人形に深夜五寸釘を打ち込み憂いを晴らすと言う恐ろしい事が行われました。

私は子供の頃、何回となくその呪文によって救われた事がありました。現在は犬等はペットとして家庭内で飼育されておりますが、以前は野良犬又は野犬といって飼い主がいない犬が多くいて、犬殺しと謂われた人がリヤカーに木箱を乗せて犬狩りをしていました。私の家でも昔は犬を飼っておりましたので自分の犬は怖いと思いませんが、野良犬は何となく恐ろしいものです。

狭い露地に五、六匹の犬が屯していてとてもその道を通り抜けるのはいやなものです。そこで私は呪文を唱えますと、不思議な事にその犬たちは何処かへ失せてしまうのでした。そのような事で私は呪い

笹尾 政儀さん



を信じております。(編集者から=笹尾さんの「犬除けの呪」：指を折って「イヌ・イ・ネ・ウシ・トラ」と唱えて手を握るのだそうです)

◇会長報告

百瀬 恵美子会長代理

台風26号の被害に遭われた方にお見舞い申し上げます。特に伊豆大島が大変です。皆様のお家は如何ですか？我が家では木の枝が沢山折れて落ちて庭に散乱していました。急に寒くなりましたので、お気をつけて下さい。

10月27日の地区大会参加宜しく申し上げます。24日は例会変更でお休みです。

今月の理事会で財団と米山の寄付目標を達成すべく皆さんに寄付をお願いしましたが、宜しく申し上げます。

齋藤ドクター卓話宜しく申し上げます。楽しみです。

◇幹事報告

1. 第8グループ会長・幹事会報告：

①2016-17年度ガバナーノミニーを12月2日(月)までにガバナー事務所へ推薦提出

②会員増強委員会より情報交換

守屋 紀忠幹事



会出席依頼

11月30日(土)PM2:30 受付

ザ・ホテル・オブ・ラファエロ湘南迎賓館

藤沢市南藤沢13-1 0466-28-2111

③ポリオ撲滅キャンペーン催し物の時に募金キャンペーンをお願いします。

2. 新会員の集いのお知らせ：大藤さん出席をお願いします

2013年11月30日(土)18:00~20:00

受付17:30より

会場：ザ・ホテル・オブ・ラファエロ湘南

迎賓館6F コーラル

3. 小諸RC創立50周年記念出席経費明細書 回覧

◇委員会報告

☆河本親秀さん：

現姉妹クラブ関係にあるワイアナエ・コーストRCのロータリアンの奥さんKay Baxterさんがクラブの依頼で大磯RCの近況を知りたいとの事で、来週23日(水)に横浜でお会いする事になりました。資料として昨年度の活動報告書、今期の活動計画書、今期の週報などを提供の予定です。今後の事については友好関係は続ける事を伝える程度になると思います。

☆片野一雄さん：

10月31日の例会卓話に地区財団委員長の伊藤延雄さんが来られます。伊藤さんは私の次のガバナー補佐をされた方です。財団週間に学生でなく地区の親方が来てどんな話をされるか楽しみにして下さい。

☆スマイルボックス

・百瀬 恵美子さん：斎藤ドクター、卓話たのしみです。

・守屋 紀忠さん：斎藤ドクター 卓話よろしくお願ひします。

・笹尾 政儀さん：斎藤さんの卓話楽しみにして居ります。

大藤 勉さん



◇ 卓 話

◆◆◆エネルギー源と時代の変遷◆◆◆

斎藤 正淳さん



今日は卓話より何より私の人生最大のイベントなんですよ！私の服装見て下さい！上半身よりも下半身を。初めてG-パンを履きました！この間の手術で10Kg痩せて細くなったから！男なら一度G-パンを履いてみたかったんですが、履いた事がなかった。タキシードが似合ってG-パンが似合えば最高の男と言われますが、タキシードは着た事はあってもG-パンはなかった。息子が連れて来て平塚の四宮のG-パン専門店へ。初めてG-パンを買うんだと言ったら、二人の店員が火星人が来たような顔をして・・・！これを1万円で、息子も買って2万円払われました。G-パンに合わせて上も考えました。今日初めて履いてきましたら、駅にいたお婆ちゃん達3人程が先生G-パンも似合うわね！



・昔の子供の役割分担

今、お家の炊事に使うのは電気、ガスですが、私の子供の頃は七輪と薪(竈=ヘツツイ)でした。台所では石炭は使いませんでした。子供にはそれぞれ役割が決まられていて、私は末っ子で、父が帰ってくる前にお風呂を沸かすのが義務でした。兄たちは五右衛門風呂に水を入れる作業が課されていました。風呂焚きは最初紙に火をつけて、木にうつし、木がよく燃えてきたら石炭を入れる。だんだん要領を覚えて上手くなる。皆さん五右衛門風呂に入った事のない人いますか？(数名あり)「東海道五十三次膝栗毛」で江戸っ子が五右衛門風呂を知らないで下駄を履いて入って釜を踏み抜いてしまった話があります。

小田原の小伊勢屋と言う宿で今も残っています。

五右衛門風呂は浮き蓋があって、それを沈めて入るのですが、寄っかかりにくい。ある時、父が風呂は沸いているかと尋ねるので上の方は熱かったので沸いていると言ったら、父が入ってぬるいと叱られたことがあり、不思議で仕方がなかった。火は下から焚いていて上の方が熱いことから下も熱いと思っていた。学校に行って物理で先生から対流現象と言う事を知ったが……。小さい頃風呂焚きをしながら色んな事を考えていました。

・ランプから定額電灯、東海道線開通

私達がエネルギーと言う事を考えたのは戦争中です。それまで家庭のエネルギーについてなど子供の頃考えた事もあちません。父は明治27年、山梨県甲府に生まれました。その父からエネルギーについて聞いた話が二つあります。一つは甲府にいた頃電気が来ました。それまではランプでした。ランプは7-8個あり、それを掃除するのが末っ子の仕事でした。何故末っ子かという^{ホヤ}と子供が大きくなると手が大きくなってガラス(火屋)の中に手が入らなくなる。手が小さいから火屋の中の煤が拭ける。父は末っ子だったので、電気が来たらその仕事がなくなって、本当に嬉しかったとの事。当時電気が来ると言う事は今と違って、各部屋の一つではなくて、1軒一つでした、そうして定額です。40ワットや20ワットの電気一つつけて幾らという事で、それも土地持ちの家でした。これは明治何年か知りませんが、父にとって子供心にそれが非常に嬉しかった、それが一つ。

もう一つは東海道線は明治18年に大磯に来た。そして明治22年に全通=東京-神戸間=しています。全通するまでは滋賀県の長浜まで。長浜から大津までは琵琶湖を舟で渡っていました。28年には広島まで開通していました。開通を急いだのは日清戦争(明治27-8年)の影響で西に物資を運ぶ必要があった。そして広島に大本営を置き明治天皇がそこで指揮を執った。物資は東京から広島に送り、広島から船で運んだ。

それから10年後、明治37-38年に日露戦争が始まった。ロシアは強大なウラジオ艦隊を持っていて、これが津軽海峡を通過して静岡沖から東海道線を砲撃したら物資ルートは絶たれてしまう。それで政府は日本海側に鉄道を敷こうとした。最初が敦賀と彦根間、それと信越線です。高崎→長野→直江津間、これが出来れば日本を横断して物資が運べます。その時に信越線で出来たのがアプト式=傾斜が急で普

通は列車が上れない所を上れるように考案された。然しこれは間に合わなかった。そこで、もう一つ考えたのが中央線。昔東海道と並んで中山道がありました。この二本があれば東海道線をやられても大丈夫と言う事で急ぎ東京から山梨・甲府まで出来た所で終戦になった。

そういう事が無ければこんなに早く甲府に列車が来ることはなかった。その時の町の歓迎ぶりは、子供心に父が覚えていることは、学校は休み、町人達は駅に総出迎え。蒸気機関車の正面には日の丸の旗と海軍の軍艦旗が交差して着けられ、軍楽隊がドンチャン演奏する中を入れて来た。汽車が来ることは文明開化が輸入されてくることでした。ヨーロッパが来たようなもので、町の文化の大きな変化でした。この二つが私の子供の頃話してくれたことでした。

・ガソリンの一滴は血の一滴

我々がエネルギーの大きな変化を考えたのは戦争中ですね。それまで家庭のエネルギーも社会のエネルギーも考えた事もない。戦争中に標語がありました。「撃ちてし已まん」=已まんと言うのはどういう意味か分からなかった。「贅沢は敵だ」=黒柳徹子が出ていました「贅沢は素敵だ」(笑い)、「ガソリンの一滴は血の一滴」。ガソリンのないことは聞いていたのでこれはよく分かりました。私は地理が好きだったので日本の石油は何処で取れるか直ぐに地図を開いて調べました。秋田県と新潟県。7割が秋田県、3割が新潟県でした。母の実家は新潟県で母の母の実家は石油の採れるところでした。母の母から、字○○のお家の囲炉裏は竹筒を引っ張ってきてそこに火を着けるとガスが燃える。あそこは良い家だ、何もしなくても火が出てくる、なんて話を聞きました。

帝国石油がそれを扱っていましたが、その量は日本で使う油の1割に満たない。他に何処で油が採れるか調べたところ、ほんの少しですが静岡県御前崎近辺の相良に1ヵ所、鹿児島県に1ヵ所ありました。これでは日本が戦争出来るエネルギーにはとても足りない。当時世界で一番石油が出ていたのはアメリカのテキサスとカリフォルニアでした。第2番目がロシアのバクー、今のアゼルバイジャン、カスピ海の西側です。此処は今でも出ます。3番目が南米ベネズエラ、今は産油量は大分減っています。後はインドネシア=オランダ領、中東地域に石油が出たのは1932年頃で余り認められてなかった。イラン、イラク、サウジ・アラビア。サウジは今一番多いが当時はそうではなかった。イラク周辺からちょっと出

る。その次はルーマニアです。ソ連に近いベッサラビアという所です。

・石炭から石油へ＝太平洋戦争と石油

日本はアメリカから輸入していました。輸入をストップされたのが昭和16年6月か8月。手持ちの石油が無くなったら海軍の軍艦は動かなくなってしまいます。軍艦を動かすのは昭和の初めは石炭でした。日露戦争の時は石炭でした。日本の石炭は英国のカーリス炭という煙が少ないエネルギー効率の高いものでした。当時日英同盟がありましたからソ連はそれを売って貰えず、効率の悪い石炭を使っていました。昭和になって軍艦の構造が石炭から石油に変わって来ました。石油の方が早い。スピードを上げる為に火力を上げるには液体の石油の方が早くできる。世界の軍艦が全て石油に変わって来ました。日本では英国のドレッドフォード戦艦=近代的な大砲と石油の装置を備えているモデル=を超える超ド級戦艦を造った。会戦に勝つにはこの超ド級戦艦がどれだけあるかが基本。戦艦長門、戦艦陸奥がそうです。その前の戦艦は使い物にならない。石油の輸入を止められたら日本は1年半もたなかった。我々はそれを子供心に知っていました。アメリカから石油が来なくなったら何処から来るのか？日本が狙ったのはインドネシアだった。当時オランダ領でした。昭和15年6月にヒトラーがポーランドに攻め込み、西に回ってオランダとベルギーを通過してフランスに攻め込みました。これによってインドネシアは浮いてしまった。オランダ領なのに本国はドイツに占領されてしまっている。そのドイツと日本は同盟を結んでいる。それでインドネシアに言うことを聞けと言っても、オランダの亡命政府側に付いているので言うことを聞かない。日本政府は何度も交渉に特別大使を派遣したが駄目でした。

昭和16年12月戦争が始まって翌年2月14日、スマトラのパレンバンという石油基地に落下傘部隊を初めて出して、設備が破壊される前に抑えたニュースを聞いて我々は感激しました。「ガソリンの一滴、血の一滴」ガソリンは大事なんだなと思いました。

・ヒトラーの石油戦略

それから日本はだんだん負け始めました。子供心に疑問があった。ドイツは石油が無いじゃないか。なのに、ドイツの戦車隊はあれだけヨーロッパを走り回っている。ドイツは一体何処に石油があるの？日本は石油がないから負けたとされるのにドイツは石油が無くてヨーロッパを席卷し、ロシアまで入

っていった。ドイツが最終的に狙ったのはコーカサス近辺のバクー周辺の油田だった。ドイツは直ぐ側まで行きました。南ロシアの黒海の東のロストフを占領してコーカサス山脈を越えてアゼルバイジャンの入口まで行きました。そこでスターリングラードの敗戦があってドイツは挫折した。そのドイツが何処から石油を得ていたかという、ルーマニアを占領してベッサラビアにある油田地帯を占領したが、世界で6-7番目くらいの小さな油田でしかなかった。私はそれをずっと疑問に思っていました。ある時ドイツのミュンヘンからオーストリアのウィーンまで列車で走ったことがありました。その時車窓から石油汲み上げの櫓が一本見えた。それだけでは賄える訳はない。直ぐ調べたところ、分かったのは石油ではなくて、石炭から石油化する化学工場が出来ていたんです。石炭を石油化するの是非常に高くつくので、実業的な工業化は難しかったので、日本はやらなかったが、ドイツは膨大な軍事費を使って石炭の石油化をし、それがドイツの快進撃の秘密でした。

・これからのエネルギーは？

エネルギーは今石油から天然ガス、シェールオイルへと変わりつつあります。これはアメリカが第1, 2番がロシア、3番はカナダでしょうか。これは石油より安いですから石油に変わるようになるかも知れません。20世紀は石油の時代、21世紀はオイルシェールの時代が来るかも知れないし、それとも風力発電・水力発電などの新しいエネルギーの時代になるかも知れません。

・エネルギーと産業革命

過去に遡って20世紀は石油の時代、19世紀は石炭の時代でした。産業革命が18世紀に起こったが、その成功は石炭に関係がある。ジェームスワットが発明した蒸気機関は石炭を掘るために使われた。イギリスのヨークシャー、バークシャーがそうです。18世紀、19世紀に伸びた国は石炭が沢山取れた国、ドイツのルール炭田、フランスのザール、日本で石炭というと北九州、北海道、常磐炭田の三つ。生産量の7割は筑豊炭田、2割が夕張炭田、そして常磐炭田。日本で石炭の需要が増えてきたのが19世紀、八幡製鉄が出来たのは筑豊炭田に近いから。日本では鉄の生産量は高かったが、それは砂鉄で、精製には樹木を使った。日本は雨量が多いから樹木の成長が早く、一山丸刈りにしても30年で緑一色に元に戻る。これは朝鮮半島の3~4倍の速さです。それで1トンの鉄を造るのに一山使うが、それが30年経つと元の山を使

える。砂鉄を造る人は30山を持っていれぱずっとや
って行ける。日本の鉄の生産量が他のアジア諸国と
較べて大変高かったのは雨が多く樹木の成長が早か
ったためです。

日本の鉄鉱石は少ししか採れなかったが、岩手県
の釜石で少し採れたので、そこに最初の製鉄所が出
来ました。鋼鉄の原料は中国から輸入していたので、
筑豊炭田の石炭と中国から近いと言う事で八幡に製
鉄所が造られました。これを造るお金に日清戦争で
勝った清国から取った賠償金2万両(当時3万円)を使
った。そのお陰で日露戦争の時に日本で大砲等が鑄
造出来るようになった。19世紀は鉄と石炭が採れ
る国が一流国になれた。その前のエネルギーは油=
菜種油、ゴマ油、オリーブ油、そして鯨の脂でした。
ノルウエーが捕鯨に強かった。鯨の脂を採って肉は
捨てた。その子孫がアメリカのメイン州に移住して
太平洋で捕鯨をやっていた。その為にペルリーが、
捕鯨船の寄港、薪や水の供給、病気をした人を上陸
させて医者に診せて欲しいと開港を迫ってきた。捕
鯨船がなかったら開国はもっと遅れていたかも知れ
ません。

・日本の時間制とエネルギー源

菜種油の時代は油は高くて夜になれば早く寝て、
朝早く起きると言う習慣が出来た。日本の時間制は
明け六つ、宵六つと言う事で季節によって時間が変
わった。明け六つと宵六つの間を細かく時間を区切
っており、夏と冬では時間の長さが違った。今から
は想像出来ませんが1時間の長さが違う。夏は長く、
冬は短くして調節していた。

エネルギーでは薪が一番古く17世紀までずーっと
来ました。鯨から油を取るのが17世紀後半。18世紀
から19世紀はイギリスの時代でした。17世紀は驚く
ななれオランダの時代でした。オランダは小さな国
でしたが東インドを取って、世界に大いに伸びまし
た。オランダ時代で面白い話があります。17世紀の
終わり頃に、オランダではチューリップが株みたい
に暴騰して、リーマンショックのように値下がりし
て経済を混乱に陥らせた事がありました。

・これからのエネルギー源は？

エネルギーというのは薪でずーっと長い間来て、
石炭に変わり、石炭の沢山取れるところが世界の強
国になり、石油になり、今度はオイル・シェルか自
然エネルギーになるか？これから先が面白いです
ね！